

平成 29 年日本熱物性学会第 2 回 (2017-2) 役員会議事録

日時：平成 29 年 4 月 22 日(土) 役員会 14：00～16：21

場所：東京工業大学大岡山キャンパス 本館 4 階会議室

出席者：(五十音順・敬称略)

大久保英敏(玉川大学)	大村高弘 (和歌山高専)
小川光恵(ファインセラミックスセンター)	小澤俊平(千葉工業大学)
桑原正史(産総研)	高野孝義(豊田工業大学)
竹歳尚之 (産総研)	春木直人(岡山大学)
日野裕久(パナソニック)	古川良知(京都電子工業)
牧野俊郎(近畿職業能力開発大学校)	宮崎康次(九州工業大学)
森川淳子(東京工業大学)	山下雄一郎(産総研)
山田盛二(サンタペーキングラボラトリー)	山田修史(産総研)
山田純(芝浦工業大学)	山田雅彦(北海道大学)

審議事項：

山田純会長より挨拶があり、配布資料（別添含む）の確認が行われた。

議 題：

(1) 前回議事録確認……………資料番号:17-2-1

小澤評議員より、資料 17-2-1-役、に基づき前回議事録の確認があり、議題(9)に「第 39 回日本熱物性シンポジウムの実行委員長として、長野方星先生（名古屋大院）にご了承頂いた」旨を追記して、承認された。

(2) 第 38 回日本熱物性シンポジウム準備状況……………資料番号:17-2-2

竹歳尚之第 38 回シンポジウム担当より、第 38 回シンポジウムの準備状況について報告がなされた。日程は 2017 年 11 月 7 日（火）～9 日（木）で確定し、会場はつくば研究センター共用講堂を予約済である旨の報告があった。

また、シンポジウム HP の URL を決定したこと、HP は外部サーバーに設置し、3 年間保持する予定であることが説明された。講演申込および論文投稿には、外部カンファレンス管理システム EasyChair を利用し、参加登録には、独自スクリプトを使用することが報告された。予算案は、過去 5 年の実績を参考に計画された事が説明された。

また第 2 回会告案が示された。後援・協賛（予定）に記載の「日本熱科学振興機構」については記載場所を確認することが、「岡山振興」「中四国熱化学」「熱エネルギー有効利用研究会」については削除する事が確認された。また、他の団体についても確認することとなった。オーガナイズドセッションでは、OS09「マテリアルズインフォマティクスに関わる熱物性データベースと技術」が新規で計画されていること、OS10「熱流計測と熱流センサーの応用」を検討中であることが説明された。また会告には、論

文作成および提出方法を掲載することが報告された。会告は、シンポジウム申込者および学会員に、HPやメーリングリストを通じて周知することとなった。

(3) 第39回日本熱物性シンポジウムについて……………資料番号:17-2-3

小川光恵 39回シンポジウム担当より、資料番号17-2-3に基づいて、準備状況についての報告があった。開催会場候補として、ウィンクあいちと吹上ホールの2カ所が挙げられた。日程は、11/12~14または11/13~15が候補として挙げられた、熱工学カンファレンスと重複しないことを確認の上、4月末までに決定したい旨が報告された。また、予算オーバーが見込まれる場合は、参加者数、企業展示数を増やすことで対応に務めたいとの説明であった。これらに関して、学会からの80万円の準備金を活用して、前日準備が必要な場合は11/12~15の日程とする事も含めて、実行委員会の進めやすい案で計画する事となった。

(4) 各種委員会報告……………資料番号:17-2-4-1~4

編集委員会

大久保英敏編集担当理事より、資料17-2-4-1および17-2別添に基づいて、2017年5月号(Vo. 31, No. 2(2017))の目次案について報告があった。巻頭言については桃木企画担当理事に依頼し、論文4編、講座1件、報告2件が掲載予定である。

熱物性誌に講座として連載されている、馬場哲也先生執筆の「科学技術におけるデータベースの役割」を、吉田英生先生(京大)の個人サイト「科学・工学・技術情報のソムリエ/ソムリエール」(<http://www.wattandedison.com/index.html>)に掲載することについて、規約に則り、編集委員長が承認した旨の報告があった。これに関して、記事の著作権が熱物性学会にある旨の表示を依頼することとなった。また、既にJ-stageにアップロードされている論文も含めて、著作権に関する記述と取り扱いについて確認することとなった。

表彰委員会

長坂雄次表彰委員長代理として、山田純会長から資料17-2-5-2に基づいて、2017年度学会賞の候補募集についての説明があった。昨年度同様、学会賞候補を募集する旨が報告された。また、自薦他薦問わず積極的な応募をお願いしたいこと、シンポジウムの座長の先生にも推薦依頼を出す事を検討していることが説明された。

熱物性値サービス委員会

山田修史熱物性情報担当理事より、資料17-2-4-2に基づいて、引き続き熱物性データベース関連の整備を進めていくことが説明された。また、熱物性シンポジウムのHPデータ(プログラム、論文、レイアウト等)のアーカイブについて検討したい旨が説明された。これに関連して、シンポジウムの参加登録システムの引き継ぎや、学会での管理についても、広報担当やシンポジウム担当と連携して、今後検討することとなった。

活動委員会

桃木悟企画担当理事の代理として、森川事務局担当副会長より、資料 17-2-4-3 に基づいて、活動報告があった。次回熱物性シンポジウムにおいても学生会員を対象とした学生ベストプレゼンテーション賞 (BPA) の表彰を行うことが説明された。また、BPA 対象者は学生会員である事が条件であるため、シンポジウム HP でアナウンスすると共に、講演受付システムにおいても、申し込み前に入会へ誘導することを検討して欲しい旨の依頼が、広報担当およびシンポジウム実行委員に対してあった。その際、学生会員の中にはシンポジウムの参加費と学会費の違いを理解していない者もいるので、説明に工夫を加えることとなった。BPA の審査方法の検討および採点結果の評価を行うための選考委員を、理事・評議委員から募集することが説明された。学生の学会費未納の原因の 1 つに、現状の学生のシンポジウム参加費は、学生会員と非会員で同じ金額であることが可能性としてあるかもしれない。現状の参加費設定の経緯も含めて、今後検討する。

広報委員会

宮崎康次広報担当理事より、資料 17-2-4-4 に基づいて、HP の整備およびメーリングリストの運用についての報告があった。また、広報委員の変更について検討したい旨の報告があった。熱物性シンポジウムの申し込みシステム、著作権等の取り扱いの整理を行ってから引き継ぎたい意向である。

(5) 研究分科会報告……………資料番号:17-2-5(1)~(4)

先進材料の熱物性と宇宙システムデザイン

山田純会長から、資料 17-2-5(1)に基づいて、代理で活動計画について報告があった。2017 年度上期から新研究会への移行と主査の交代を予定していることが報告された。

高温融体物性と材料プロセス

小澤評議員より、資料 17-2-5(2)に基づいて、活動計画および前年度からの繰越金について報告があった。直近の活動として、5/10, 11 に日本鉄鋼協会高温物性値フォーラムとの共催で分科会が開かれる旨の説明があった。

断熱材の熱物性計測と評価研究分科会

大村副会長より、資料 17-2-5(3)に基づいて、活動計画について報告があった。本年度も 3 回程度の分科会の開催を予定していること、4/21 に産総研の阿子島先生を講師として分科会が開催されたことが報告された。また熱物性シンポジウムでは、OS9 を計画していることが説明された。

ふく射性質とその放射制御に関する研究会

宮崎広報担当理事より、資料 17-2-5(4)に基づいて、2016 年度の活動について報告された。2 回の勉強会と講演会が開催されたこと、熱物性シンポジウムで OS が企画された事が説明された。

(6) 事務局報告……………資料番号:17-2-6-1~3

森川事務局担当副会長より、資料 17-2-6-1~3 に基づいて、共催・協賛関係、会員異動、会費収納、について報告がなされた。会員異動に記載されている学生会員の退会者は、退会届が提出されたものである

ことが説明された。また会費収納および名簿管理について、今年から日本熱科学研究支援機構に委託していることが報告された。

また、今回の役員会は、9/9に芝浦工業大学 田町キャンパスで行うこととなった。

(7) その他

- ・ 分科会「水の特異な熱・輸送特性と応用に関する研究会」の報告書作成費用について
昨年度終了した分科会「水の特異な熱・輸送特性と応用に関する研究会」について、白樫了先生（東大）から、報告書を作成するための予算の希望があった。本年度の予算には計上されていなかったが、分科会終了時に活動費の残金として約7万円が学会に返却されていたことから、その金額を印刷費として使用することについて了承した。
- ・ 学会設立40周年記念事業について
山田純会長から、学会設立40周年記念事業について準備を始めるために、記念企画実行委員会を設置したい旨の説明があった。第41回熱物性シンポジウムの年が、学会設立40年になる。今後、同シンポジウムで記念祝賀会と記念シンポジウムを行うことや、第40回、41回シンポジウムの二年事業とすることなどについて、意見を集約する
- ・ 会員増強について
第38回シンポジウムにおいて衣服関連のOSが無くなった際の動向から、分野が減ると会員減となることが明らかである。電池分野などの、新規分野を開拓、勧誘するなどの方策が必要である。また、企業の会員を増やしたいが、そのためには、企業が実際に必要としている情報が得られる学会が魅力である。また、講演会、講習会も効果的と思われる。さらに、OSのタイトルが魅力的であるなら、企業は興味を持つことから、キーワードが重要である。

以上